

平成26年12月19日
 阪神高速道路株式会社

第10期(平成27年3月期)中間決算の概要

1. 連結決算の概要

(単位: 億円、単位未満切捨て)

項目	平成26年 中間期 (A)	平成25年 中間期 (B)	増減		平成27年 3月期 通期見通し	平成26年 3月期 通期実績
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)		
営業収益						
高速道路事業	884	1,870	986	52.7%	2,227	3,167
料金収入等	859	873	14	1.6%	1,712	1,739
道路資産完成高	25	997	972	97.5%	514	1,427
関連事業	42	55	13	23.5%	109	128
受託事業	20	37	17	46.6%	51	85
その他の事業(注) ¹	22	17	4	26.9%	58	42
セグメント間取引消去	0	1	0	-	-	2
	926	1,925	998	51.9%	2,336	3,293
営業費用						
高速道路事業	873	1,837	963	52.4%	2,223	3,185
道路資産賃借料	662	658	4	0.6%	1,320	1,316
道路資産完成原価	25	997	972	97.5%	514	1,460
管理費用	185	181	4	2.7%	389	409
関連事業	40	54	13	25.3%	102	124
受託事業	20	38	17	45.6%	49	86
その他の事業(注) ¹	19	15	3	23.1%	53	38
セグメント間取引消去	0	1	0	-	-	2
	913	1,889	976	51.6%	2,326	3,307
営業利益						
高速道路事業	10	33	23	68.6%	3	18
関連事業	1	1	0	46.7%	6	3
	12	35	22	64.2%	9	14
経常利益	15	36	20	56.6%	12	9
中間(当期)純利益	13	21	7	33.8%	15	19

(注) 1 関連事業の「その他の事業」には、休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業、発生土再生活用事業等を含んでおります。

2 平成27年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

2. 料金収入及び通行台数実績

項目	平成26年 中間期	平成25年 中間期	増減率
料金収入(億円)	857	870	1.6%
一日当たり通行台数(全体)(千台/日)	735	741	0.9%
一日当たり通行台数(普通車)(千台/日)	672	680	1.2%
一日当たり通行台数(大型車)(千台/日)	63	61	2.6%

3. 事業の状況

(1) 高速道路事業

【業績の概要】

- 阪神高速道路の一日当たり平均通行台数は、天候不順や燃料価格の高騰等の影響により73.5万台(前年同期比0.9%減)と減少傾向となり、この通行台数減少の影響等により料金収入は857億円(前年同期比1.6%減)
- 道路資産賃借料は、662億円(前年同期比0.6%増)
- 道路資産完成高は、25億円(前年同期比97.5%減)
道路資産完成高の大幅な減少は、前中間連結会計期間に阪神高速2号淀川左岸線(島屋～海老江JCT)の開通に伴う道路資産完成高を計上したことによるものです。
- この結果、高速道路事業において営業収益は884億円(前年同期比52.7%減)、営業費用は873億円(前年同期比52.4%減)、営業利益は10億円(前年同期比68.6%減)となりました。

【主なトピックス】

- 阪神高速道路は、昭和39(1964)年6月28日に大阪1号線(現在の1号環状線)土佐堀～湊町間2.3kmが開通して以来、今年で50周年の節目を迎えました。
「安全・安心・快適」の更なる追求のため、老朽化した構造物に対する修繕事業を行うとともに、長期的な視点での維持管理のための更新計画についての検討を鋭意進めています。
- ミッシングリンク解消に向け、新設路線である大和川線(三宝JCT～三宅西)の整備を推進するとともに、松原JCT改良や西船場JCT(信濃橋渡り線(仮称))の整備促進に鋭意努めています。

(2) 受託事業

【業績の概要】

- 大阪府道高速大和川線に係る工事受託等により、営業収益は20億円(前年同期比46.6%減)、営業費用は20億円(前年同期比45.6%減)、営業損失は41百万円(前年同期は営業損失6百万円)となりました。

(3) その他の事業

【業績の概要】

- 休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業、発生土再生活用事業等を展開したことにより、営業収益は22億円(前年同期比26.9%増)、営業費用は19億円(前年同期比23.1%増)、営業利益は2億円(前年同期比70.2%増)となりました。

【主なトピックス】

- 阪神高速グループがこれまで培ってきた技術・ノウハウを活用した道路マネジメント事業について、第二阪奈有料道路の管理受託では交通管理等業務を新たに受託するなど、周辺の自動車専用道路等の一体的管理受託を積極的に展開しております。
- 当社初となる大規模賃貸住宅(千里中央)の完成(平成26年3月)に伴い、賃貸住宅事業を本格的に開始するなど保有資産の有効活用に努めております。

(参考) 平成26年中間期の個別業績について

(単位: 億円、単位未満切捨て)

項目	平成26年 中間期 (A)	平成25年 中間期 (B)	増減		平成27年 3月期 通期見通し	平成26年 3月期 通期実績	
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)			
営業収益	高速道路事業	882	1,868	985	52.8%	2,222	3,160
	料金収入等	857	870	13	1.6%	1,708	1,733
	道路資産完成高	25	997	972	97.5%	514	1,427
	関連事業	28	45	16	36.3%	69	100
	受託事業	20	37	17	46.6%	51	85
	その他の事業	8	7	1	17.4%	17	15
	911	1,913	1,002	52.4%	2,292	3,261	
営業費用	高速道路事業	870	1,832	962	52.5%	2,222	3,184
	道路資産賃借料	662	658	4	0.6%	1,320	1,316
	道路資産完成原価	25	997	972	97.5%	514	1,460
	管理費用	182	176	5	3.3%	387	407
	関連事業	27	43	16	37.1%	64	98
	受託事業	20	38	17	45.6%	49	86
その他の事業	6	5	1	18.6%	15	12	
	898	1,876	978	52.1%	2,287	3,283	
営業利益	高速道路事業	11	35	23	67.0%	0	23
	関連事業	1	1	0	11.9%	4	2
	12	36	23	65.0%	4	21	
経常利益	15	38	23	60.2%	7	18	
中間(当期)純利益	9	22	13	58.2%	8	23	

(注) 平成27年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。